茨城工場 CSRレポート

事業内容： 高圧ホース、シーリング材の製造
敷地面積： 152,000m²
従業員数： 304人（2013年12月末現在）
所 在 地： 〒319-0198　茨城県小美玉市羽鳥西1番地

相談・苦情などの受付窓口：
工場管理課　秋山　秀正
TEL：0299-46-1111
FAX：0299-46-0235
メールアドレス：
h.ray.akiyama@mta.yrc.co.jp

工場長ご挨拶

久永　孝

茨城工場は、1973年日本最大規模の高圧ホース専門工場として操業を開始し、1997年には建築用シーリング材工場を稼働して今日に至ります。
当工場は、当社GD100の基本方針に基づき、「トップレベルの環境貢献企業」達成に向けた施策に取り組むとともに、茨城の豊かな自然との調和・融合と、その共生を目指し、地域貢献・社会貢献を行うことを環境方針に加え、各種の活動を推進しております。産業廃棄物の削減については、工程内不良削減をテーマとしたチーム改善活動の強化や、材料・設備の管理レベルを向上することにより成果を上げています。省エネルギー活動では、省電力タイプの機械設備への更新、省エネの意識付け、ペーパーレス化などを全員活動で、積極的に展開しています。こうした活動が評価され、県が実施するエコ事業所登録制度において最高ランクのAAAを維持しています。
また、工場内の植樹は計画完了しておりますが、育苗活動を継続しており、地域の催しや震災の被災地の植樹活動への提供を行なっております。さらには昨年度より、生物多様性活動に着手し、園部川から霞ヶ浦までの水生生物の調査を開始しております。これらの活動を通して、地域社会とのコミュニケーションの向上を図っています。
茨城工場は環境マネジメントシステムをさらに強化し、環境貢献への取り組み、環境トラブルの防止を全従業員参加型の活動で進めていきます。

組織統治

意思決定プロセスと構造

工場安全文化の構築として、下記3項目を設定しています。
（1）3S　（整理・整頓･清掃）を率先して行う
（2）大きな声で　「挨拶」　を行う
（3）時間厳守　（会議3分前に着席）
安全・環境・品質の工場方針は、会社の方針に基づいて設定しており、方向性については、会議体において決定しています。

人権

調達先の人権配慮

2013年12月に第2回CSR勉強会を開催し、13社14人の調達先が参加されました。今回は「ハラスメント（パワーハラスメント、セクシャルハラスメント）しない!させない!」「情報管理、情報漏えい」に関して説明を実施しました。

障がい者雇用の推進

雇用促進のため2014年4月より新卒者を1人を採用し、現在3人の障がい者の方が活躍しています。

仕事と生活の両立

水曜と金曜の週2日、定時退社日を設定しています。2013年度は、短時間短日数勤務者6人、育児休暇取得者7人、リフレッシュ休暇取得者は3人でした。

苦情解決

コンプライアンス推進室への報告・相談はありませんでした。

労働慣行

安全・健康な職場環境づくり

労災は作業時に、メスの刃先による切創が1件発生し、対策として作業場の改善、作業手順書の作成、使用具の改善を実施しました。
また、メンタルヘルスケア対象者への対応や職場への復職プログラムについての勉強会を2回実施しました。

労使関係・人材育成・訓練

定年退職後の生き方をテーマに、労使共催でライフセミナーを6月に開催しました。

メンテナンス

26のサークルと職制チームごとに工場内で27のM/C（機械装置）を割り当て、2013年12月よりTPM（全員参加の生産保全）の第2ステップを展開しています。
事前診断は、各サークルリーダーと各指導員にて診断することで、他サークルリーダー・指導員のレベルアップを狙っています。本審査は、工場長と各課長、マイスター、生技係長、製造係長が診断シートによる現場確認を実施。また、改善・修理等が出来るよう保全マイスターによる技能実習も定期的に開校し、オペレーターの自主保全レベル向上に努めています。（今年度は37人の受講）

人材育成・訓練

新入社員・期間社員へは、先輩作業者をブラザーとして3年間配置し、作業教育を行っています。1対1の教育を実施し、教育結果を振り返ることにより個人のスキルアップにつなげています。

環境

汚染防止

環境リスクの未然防止として、予想される緊急事態の訓練・テスト（重油タンクからの油漏れ、運搬中の溶剤缶の転倒等）を1回/年行っています。

産業廃棄物の削減取り組み

産廃物削減については、MD（ムダ取り）活動を通し、ゴミの分別の見直しやペーパーレス化を推進しています。製品に付随する副資材は欧州ELV指令/RoHS指令非含有宣言書を入手し、該当成分が含有されて無い物品を購入しています。

気候変動の緩和と適用

省エネルギー活動として、高効率エアコンやモーターの採用、断熱保温の水平展開を推進しています。

環境保護・自然生息地の回復

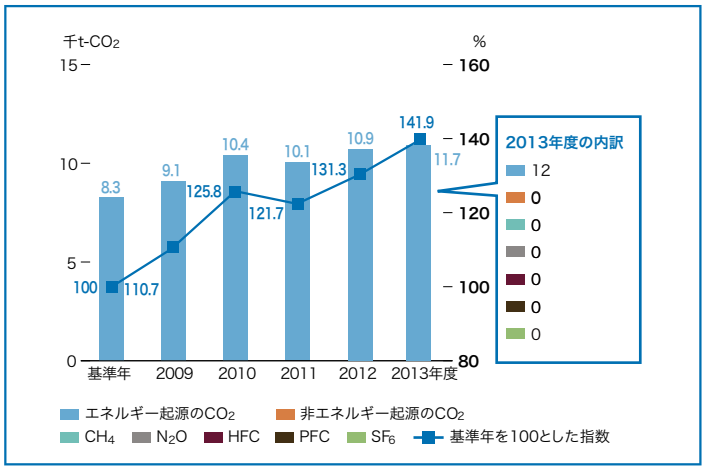
当工場の排水を流している園部川に対し、水質・水中生物・植物・鳥類などの生物多様性保全調査を、3回/年実施しました。
その結果、外来種の植物・水中生物が発見され、一部不安定な生態系である事が判明しました。今後、外来種の駆除とモニタリングを3回/年、継続して実施する予定です。

環境データ

■温室効果ガス排出量の削減

・温室効果ガス排出量

2010年度から、漸減しています。



※基準年：1990年を原則としていますが、京都議定書に準じてHFC、PFC、SF6は1995年としています。
※温室効果ガス(GHG)の算定方法：環境省・経済産業省発行の「温室効果ガス排出量算定・報告マニュアル」に準拠しています。
なお、2009年度の電力購入からのGHG算定は、環境大臣公表の契約電力会社別実排出係数を使用しています。
※2011年度は決算期が4-12月となりましたので、2011年1-3月データを重複させて1-12月で集計しています。

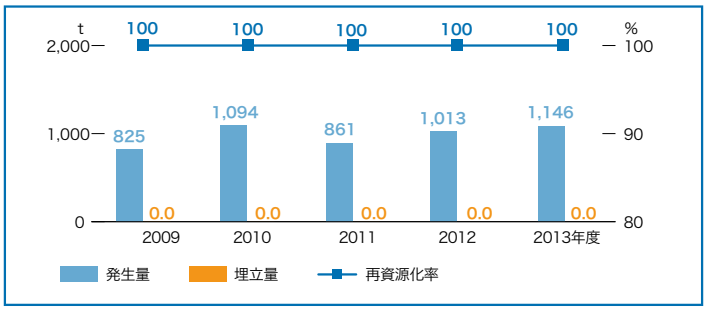
■資源の有効活用／廃棄物の削減

・廃棄物発生量

2006年度より完全ゼロエミッションを継続しています。

・廃棄物埋立量

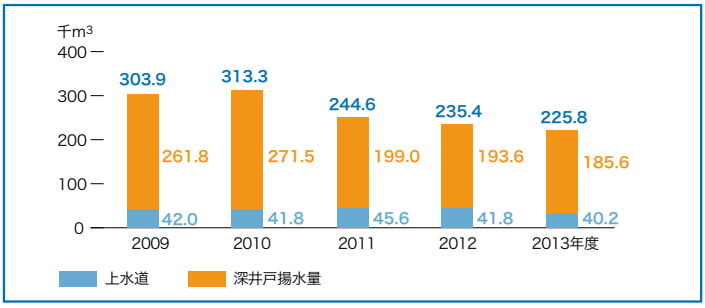
2007年度に再資源化100%を達成し、その後継続しています。



環境

・水使用量

年間22万5千トン使用しています。取水源の内訳は、地下水が約82%水道水が18%となっています。



■水・大気・土壌への排出対策

・水質汚濁にかかわるデータ

年間約44万トンを園部川に排水しています。

項 目	規制値	自主管理値	2013年度実績		
			平均値	最大値	最小値
PH	5.8～8.6	6.7～8.2	7.6	8.0	7.4
BOD濃度（mg/l）	10	5.5	2.2	4.5	1.0
COD濃度（mg/l）	10	5.5	2.5	4.1	1.1
SS濃度　（mg/l）	15	5.0	1.1	4.5	1.0
油分濃度（mg/l）	3	0.8	0.5	0.5	0.5

※茨城県条例、小美玉市環境保全に関する協定
※排水先　園部川

・土壌汚染

年に1回地下水分析（浅井戸）を実施しており、すべて法および小美玉市条例の基準値内であることを確認しています。

・大気汚染物質（NOx、SOx）

年に2回測定しており、すべて法および小美玉市条例の基準値内であることを確認しています。

項 目	NOx	SOx
排出量（t/年）	0.54	0.037

施設名称	項 目	規制値	自主管理値	2013年度実績		
				平均値	最大値	最小値
茨城工場ボイラー	硫黄酸化物（K値）	13	10以下	0.27	0.45	0.19
	窒素酸化物濃度（ppm）	260	125	68	95	50
	ばいじん濃度（g/m3N）	0.3	0.1	0.002	0.002	0.001

※大気汚染防止法、小美玉市環境保全に関する協定

化学物質の管理状況についての報告

副資材・補助材関係はMSDSで対象化学物質の有無を確認し、PRTR法で定められた量の取り扱い物質について年1回、国（県）への報告と安全性影響度評価を行っています。

(単位: t／年)

政令番号	対象化学物質	取扱量 ※1	排出量 ※2	移動量 ※3	安全性影響度評価　VII-5※4			
					有害性ランク（人）	年間換算排出量（人）	有害性ランク（生態）	年間換算排出量（生態）
239	有機スズ化合物	3.452	0	0.165	A	0.000	記載なし	0.000
298	トリレンジイソシアネート	27.93	0	0.955	A	0.000	B	0.000
438	メチルナフタレン	16.08	0.08	0	記載なし	0.000	記載なし	0.000
80	キシレン	0.32	0.003	0	C	0.030	B	0.300
296	1,2,4-トリメチルベンゼン	0.169	0.001	0	C	0.010	C	0.010
300	トルエン	0.902	0.184	0	B	18.400	C	1.840
355	フタル酸ビス(2-エチルヘキシル)	0.407	0	0.031	A	0.000	B	0.000
392	ノルマルーヘキサン	0.218	0.009	0	C	0.090	記載なし	0.000
	総合計	49.478	0.277	1.151	—	18.530	—	2.150

※1：PRTR対象化学物質の年間取扱量が、指定量以上の場合は届出対象
※2：排出量＝大気＋公共用水域＋土壌
※3：移動量=廃棄物−公共下水道
※4：排出量に有害性ランクを掛けて換算排出量を算定
安全性影響度評価の基準については、「国内生産拠点の安全性評価表」をご参照ください。
（http://www.yrc.co.jp/csr/data/pdf/16kokunaikyoten.pdf）

騒音対策

毎月1回、工場敷地境界線15カ所で騒音測定を行い、小美玉市条例の基準値内（55db以下）であることを確認しています。

公正な事業慣行

法令順守の徹底

下請取引改善講習会に参加しました。

調達先での労働・安全・職場配慮

公正、透明、自由競争、適正取引を行っています。

コンプライアンス徹底

第2回CSR勉強会で、調達先に対して情報管理に関して説明を実施しました。社内教育として、「コンプライアンス職場学習」を実施(1回/月)しています。

消費者課題

苦情などへの対応

製品に関わる苦情が発生した場合は、迅速に現品を取り寄せ、調査、報告書を作成し、お客さまが納得していただけるよう対応しています。

ユニバーサルデザイン推進

製品に印字するブランドマークについては、消費者を惑わさないよう、タイヤと同一の新タイプに集約する活動を開始しました。

コミュニティへの参画及びコミュニティの発展

地域との共存共栄

自治体・地域法人との交流推進の目的で、定例会議開催しました。総会への参加人員は 30 人でした。

雇用の創出

工場隣地の小学校4年生を対象とした交通マナー講和を開催し、安全教育を実施しました。(6月)

地域貢献

小美玉市ふれあい祭りに出店し、苗木1,160本を無償配布し、社会福祉法人「進和学園」へ苗木6,250本を贈呈しました。ボランティア活動については、東北被災地の植樹・地元地域の竹原地区あじさい植樹など、延べ26人が参加。新入社員4人は全員地元から採用を行いました。

生物多様性・環境教育

「小美玉生物の会」「日本野鳥の会茨城県」の支援をいただき、2014年からは、両団体とコンサルタント契約を締結、継続的に指導を受けました。

工場見学

近隣小学校・地元高校を対象に 4 回工場見学を開催しました。近隣地域とコミュニケーションを推進しています。